



★部屋の外：ダンボールで仕切っただけで生活している状況（外にも高齢の方が多く、寝転がっている）。1階の入口側にもダンボールで生活している人のラインがあり、おそらくそこは、特に肌寒い。また外からも見えてしまう。



*施設の外には、自衛隊の車両や施設がある。そこがお風呂場になっている。



★食事：列に並ぶ必要があり、全員に行き渡るが、列が遅ければ、2時間くらい待たなければならない。食事の列に並ぶ人から、部屋の外のダンボールで仕切られたところで生活している人の状況は、丸見えになっている。食事の列の一番手前には、お知らせのチラシが数種類ある。

★女性専用部屋：更衣室のみで、一応二重扉にはなっているが、階が上のため、その更衣室がある部屋で生活している人が利用している状況。とても狭く、数人が着替えをしたらそれだけで一杯になる。また、2階にあるため、1階などの人が利用するには、かなり大きな壁があるだろう。



<女性専用更衣室>

手で支えているのが外側の扉、半分見えているのが内側の扉。ここより少し右手が部屋全体の入り口になっていて、その向こうは2階の廊下

★診療室：部屋自体は、他より暖かい（むしろ他のところは肌寒い）。しかし、長机で仕切られているだけで、完全に丸見えで、仕切りは、2つくらいにしか分かれておらず、女性も男性も一緒に、高齢の方が数名、一緒にただ寝転がったり座ったりしている。毛布などは、あり。訪れた日は、診療が休みの日。看護師のマークをつけた方は見かける。



*二階のエレベーター前にも敷居で囲って人が生活している。これらの敷居は低く、歩いていると丸見えになっている。二階では、子どもが勉強している様子も見られた。

★エレベーターなどが動いていないため、階段である必要がある。階段にも多少、チラ

シが貼られている。また踊り場には、高齢者などのための休憩用のイスがおいているが、おそらく高齢であったり障害を持っていたりすると、階段の上り下りだけで大変だろう。

*男女の区別なく、ただ詰め込まれている。

→★建物（例えば階のある箇所から）一角全てを女性と子ども専用スペースにしてはどうか、という提案

*トイレには、入口にパープル・ホットラインなどのチラシが貼り付けてある。トイレの個室の中にもあるので、そこでは少なくとも個別に見ることができる。



<トイレの中に貼られたチラシ>

→★トイレの手洗い場などに、パープル・ホットラインの小さなカードを置いてはどうか

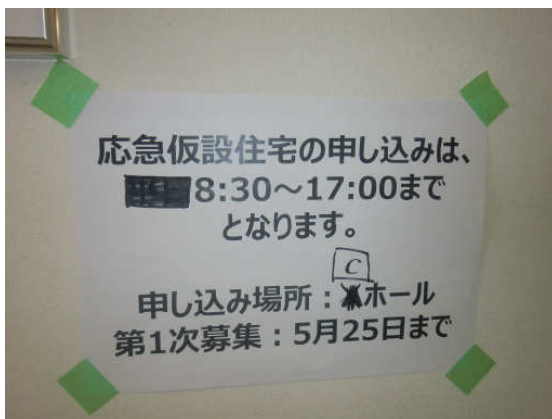
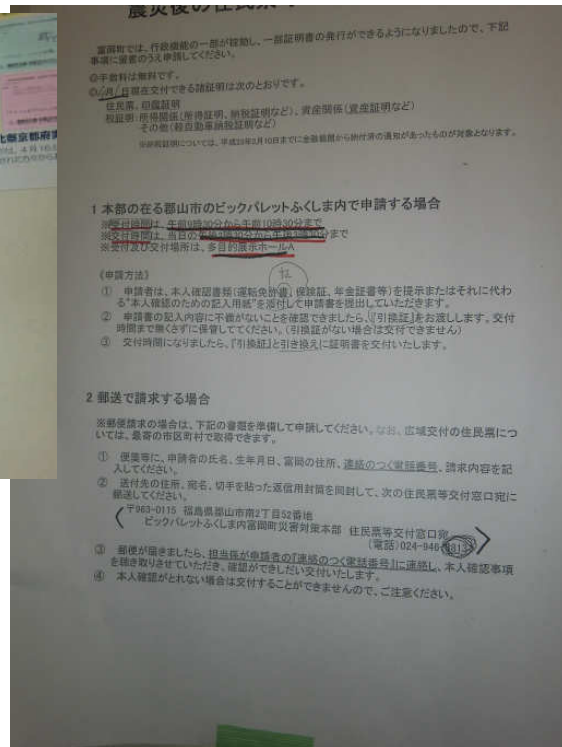
(トイレ自体は、比較的清潔感があった)

*ビッグパレットの出入り口付近に、授乳室がある。ピンクの扉が外側の扉で、内側に 2 部屋ある。出入り口には近いが、2 階などから通うには、やはり遠い。



<内側の 2 部屋（部屋自体は清潔感がある。使用頻度や物品の準備等は不明。ミルクを使う場合に温める場所は見当たらない。おむつを替えることには使用しているかどうか不明>

*ビッグパレットの出入り口付近に事務所がある。その前の辺りが、お知らせの掲示板やチラシ置き場になっている。ここに外国人のための無料法律相談についてのチラシや保険についてのチラシなども置いてある。罹災証明発行時間や仮設住宅申込みについてのお知らせ（受付時間）などもチラシが貼り付けてある。



< イベント情報もお知らせ欄と同じところにある >



第2. 郡山市内---放射能の影響、全体としての懸念

毎日とてもイライラし、怒りが爆発しそうになる。

軽いうつ、軽い躁状態を自分も気にしている気がする。

毎日シーベルト（放射能濃度）を気にして暮らしていかなくてはならない。

しかし、ここに住んで生きているのだから、ここを出てどこに逃げるわけにもいかない。よく福島以外の方が「危険だから早く逃げた方がいい」「どうして逃げないのか」と声高に言うが、とても嫌である。

逃げられるのは余裕のある人たち。それでも差別されたり、避難先で石をぶつけられたりして福島に帰ってきた人もいる。

だから、「子どもだけでも早く避難させろ」という人がいるけれど、自分たちだって差別されるのではないかと怖いのに、自分の手の届かないところに子どもだけ避難させるなんてとてもできない。

南相馬等の避難地域から避難した人の中には、一時避難先からさらに全国の旅館・民間住宅などに散り散りに飛ばされて、いわば「コミュニティから切り離されて、丸裸にされて、放り出された」人がいて、そうなるのは恐ろしい。

すべてを捨てて避難をして、国はなにかしてくれるのか、別の場所に行っても差別され、生活の値を断ち切られるだけではないか、

仕事もあり受け入れ態勢もある生活環境をすべて国がきちんと補償してくれるというなら移転できるかもしれないが、そういう約束もないのに、余裕があって避難できる人はいいいけれど、ここでしか暮らせない人は、移転などできない。

避難地域でない場所の方々も、次第に避難地域の範囲が拡大して、自分たちもそうした境遇に遭うのではないか、そのうち福島は消えてなくなるのではないか、と心配されて夜も眠れない、このままでは私たちは国に捨てられる、といつも思う。

第3 飯館村

1. 概況

- ・ 6000 人の住民がおり、そのうち 1000 人は避難済み。
 - ・ 保障をしてほしい。
 - ・ 村民の意見を訴えられる場所が欲しい。
 - ・ 村を出る方向の人が多い。
 - ・ 村を出るのは生活の目処を立ててから。
- * 南相馬は、ばらばらになって、町の機能が動かなくなったため、飯館は、コミュニティは一緒に、と希望している
- ・ 元々、障害者、高齢者の施設がなかった地域
 - ・ 例えば、障害児や自閉症の子どもを抱えた親は、周りに迷惑がかかるのが分かっているため、避難所へは避難しなかった。例えば、障害児の例では、花巻から相馬、そして千葉と転々と避難した。

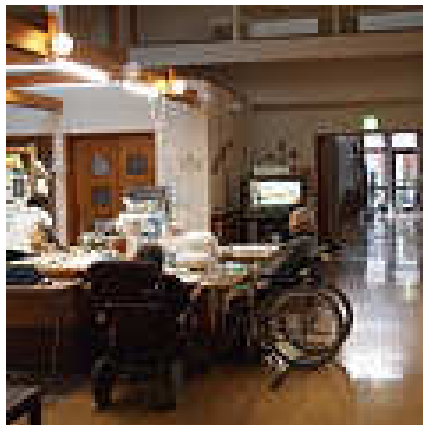
2. 飯館 福祉会でのお話（三瓶さんからのお話）



●福祉会の概要

- ・ 利用者 107 人（3 月時点では 110 人（3 名は自然死）、107 人の内 7 人が終末期）
- ・ 女性が 80%
- ・ 年齢は、平均 83 歳くらい（50 歳代から 102 歳まで）
- ・ 看護師 7 人、デイサービスなどが 6 人、保育所の職員 6 人
- ・ 職員の 90%、利用者の 70%が飯館村の村民
- ・ 保育所の職員が少ないため、ギリギリのローテーション（夜勤と日勤の 2 つのローテーションにしてやりくりするが、ケアの質が下がる）
- ・ ユニットケアの手法をとり、同じ職員が同じ患者に対応してきた：人数が少なくな

れば、この方法は難しい



飯館 福社会 の 内部

●物流など

- ・木質、チップを燃料としているので、花町から取り寄せられる
 - ・軽油も大丈夫で、石油やガスも川俣から調達できる
 - ・食料も職員の通勤途中で調達できる
 - ・課題は、警備する人がいないということ
- *残っている人へライフラインを送るのが大変

●移動について

- ・高齢者にとっては、移動すると大きなリスクになる
 - 県内には、813 人いるが、近いところは埋まってしまったため、今受け入れられる施設がない。群馬や東京など遠くへ移動させ、移動距離が大きくなるほど、リスクが高くなる。
 - 利用者の平均年齢は、80 歳。影響があるのが 20 から 30 年後とすると、移動させるリスクの方が大きい
- ・外に出なければ被ばくが少ないため、内にいる利用者は大丈夫だろう
- ・職員は、外に出ることもあるので、区域外に避難する
 - 外に出ると（家族と一緒に）職員がついて行けなくなる
 - 高齢者は、バラバラに避難させなければ場所がないので、職員が送っていき、引き継いだら戻ってくる（送った先では、職員は必要ないため）。つまり職員の雇用がない。
- ・若い職員のことを考える→既に 32 人が退職。しかし、妊婦も残っている（外では働かず、内で）
- ・29 ヶ所に分かれて避難するため、利用者は施設には、入れる。しかし、ケアの方法が施設ごとで異なり、職員も異なる。
 - 1 ヶ所の仮設があれば、もう少しきちんと対応できるが。

→県内で3ヶ所に避難することになる（二本松、福島、川俣）（コミュニティを壊さないよう、バラバラにたくない）

*福島で、最初は1万4千戸を7月までに建設予定だった。避難区域が拡大したことで、1万戸が追加で必要になった。

★大手のプレハブ建築協会が、岩手や宮城を含めて、すべて引き受けている。そのため、（本当は、地元の業者に頼んで欲しいが）1か月では建設できない。また、そうした建設業者や警察や自衛隊がホテルをすでにとってしまっていて、今避難しようとしているホテルに避難できない。

→伊東には、同じような施設があるが距離が遠いため、職員はあまり来ないのではないかと。また患者の体も心配。

- ・企業は継続したい：精密機械などは他に据え付けるには3、4ヶ月かかるため、外から通って創業したい。
 - ・農業は、できない。しかし、それは、飯舘村で働く場がなくなるということで、村が再興できなくなる。
 - ・診療所も必要：医師が必要（最後の1人まで面倒を見る必要）
 - ・保育所も6人：いずれは外に移らなければならない→1軒家を借りて、そこを借りたい
- ★保証についても、例えば、別の職場に行く必要のある夫と元々の学校に行く必要のある子どもというように家族内でばらばらになってしまうのに、保証は世帯ごととされているため、出費が圧倒的に高い。

●計画的避難：6ヶ月から9ヶ月がメイン

- ・浜通り：11の施設があり、有無を言わず職員は解雇。再開できるかどうかは不明。
- ・圏内には6つくらいの施設があり、再開は不可能だろう

●原発について

- ・情報について、どこまで正しいか分からない
 - ・最終決定は、政府（高生労働省など）
 - ・家族には、まだ話していないが、決まったら話さなくてはならないだろう。
 - ・利用者本人は、分からない人がほとんどで、分かる人はテレビを見ている（家族では、1組だけ、利用者を連れて逃げるという人がいた）
- ★政府の決定後、家族への説明をして、移動になるが、耐震の対応がされているところではないため、そのような施設がなく、入れない。
- ・逃げてから、体力が落ちたために戻ってきたケースがある
 - ・福祉避難所は、ない
 - ・東北で100つくる→グループホーム的なもの
 - ・子どもの学校の関係で、子どものいる家族は早めに非難している（受験などもあるので）

- ・要介護である場合には、一緒には連れて行けない
- *残れるようになると
 - ・在宅利用の受け入れができるようになる（避難のリスクがあるので）
 - ・外から送ってもらって人を雇うこともできるようになる
- *職員は、逃げていないので、あせっていて、それは仕事のミスにも現れている。
（72人は一度も避難していない。）
 - ・一度逃げて、戻ってきた職員もいる。ここでは、特に欠勤や始末書は、なし。
 - その代わりに、逃げた職員にはボーナスは、なし。他の職場では、逃げたことで始末書があるところもある。
- ★避難所では、見守りが必要
- ★警察には、分かりやすいパンフレットも必要ではないか

3. 役所



建物の入り口に、物資が山積みになっている。帰りがけには、職員がトラックへの詰め込み作業を行っていた。

<2011年 4月 29日、 17:36:30>

第4．2011年4月30日：南相馬市の報告

報告者：後藤弘子

11 時頃：南相馬市入り

- ・郡山から南相馬市に入る。

11 時 30 分頃：原島地区

- ・NPO 法人ピースビルダーズ 山岸良馬さんと原町地区で会う。
- ・話をするため、場所を探すが、マクドナルドやファミレスは開店していない。かろうじて COCOS のみが開いていた。

12 時ごろ：鹿島地区

- ・12 時頃炊き出しがあるというので、泥だしのボランティアをしていた高遠菜穂子さんと合流。彼女の他数人の男性ボランティアが泥だしをしていた。場所は鹿島地区。

12 時半頃：原町地区

- ・炊き出しの現場に向かう間、津波の被害の場所を通過。かなりの被害。船や防波堤においてあるものが散乱している。しばらく屋内退避地区だった原町地区では遺体捜索の自衛隊員の姿も目立つ。

